

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for Group Home Fujii Club.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address.

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for NPO K-net.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福井倶楽部は民家改修型のグループホームで自然に囲まれた住宅街の中にあります。高台に位置しており、居間からの眺望は素晴らしく四季折々の景色を楽しむ事が出来ます。近所の方とは日常的に交流があり、今年度は町内会の行事も積極的に参加出来ました。職員は介護福祉士7名看護職員1名の計8名で、運営理念にあるように皆さまが家庭的な雰囲気の中でこやかに過ごす事が出来るよう個別のリハビリを取り入れながらサービス提供に努めております。また、職員の接遇に力を入れており外部研修の受講や定期的な自己チェック、他者評価の実践を継続しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市の中心から10キロ程度離れた西部の丘陵部にあり、眼下には住宅地が広がり、市内中心部や遠く暑寒連峰も見渡せる絶好のロケーションで、また周囲を手稲山系が取り囲む自然豊かな環境下に立地している。建物は大きな民家を改造しており、1階に6室、2階に3室で構成され、1ユニット9人の高齢者が生活している。母体は老健施設を中心とした社会福祉法人で、行事や研修、人事交流と、結束力の高い組織性を誇っている法人である。当事業所の優れた点は、サービスの質向上は職員の質向上にあるとし、職員がお互いに尊敬できる関係となれるよう職員間の接遇に傾注してきた結果、定職率は高く平均稼働歴も6年間を超え安定した運営が可能となった。具体的には、職員全員で介護方法や喋り方、日頃の行動等々を指摘し合い、良いところや改善して欲しい点を相互に理解し、全員で安心できる介護を目指している。基本は称える、褒める、認める事を力点に置いての指摘提言であり、長所を伸ばす事で欠点も自然に寛解され、利用者を中心とした統一的な介護の推進力となっている。グループホーム福井倶楽部の介護員は全員国家資格者で経験年数も長く、今後は小さな事業所の大きな飛躍に注目し期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (56-62).

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内数ヶ所に理念を掲げ毎月唱和している。明るく家庭的な雰囲気を大切にしている。	「明るく家庭的な雰囲気です。入居者がにこやかに個性豊かに過ごす」の運営理念を事業所内に掲示し、月に1度は唱和も行いながら、実践に活かせるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方をホームのバーベキュー行事にお誘いしたり、町内会の行事に積極的に参加している。今年度は沢山参加出来た。地域の方とは日常的に会話や挨拶をし、収穫物を頂いたりしている。	事業所のお便りを町内会に回覧し、日頃から親睦を深めており、町内会行事と事業所でのお祭りに相互で参加し、交流を促進している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在事業所として特別な活動はしていないが回覧板にホームの広報誌を入れて活動をお知らせしたり、見学を促している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しておりホームの日常の様子や行事等活動の報告をしている。地域包括支援センターや町内会からの情報や意見を聞きサービス向上に活かしている。今年度は参加した事のないご家族に参加して頂く事が出来た。	家族や包括、町内会役員の参加を得ながら2ヶ月ごとに定期開催している。議事内容も行事や出来事の内容から、事故やヒヤリハットにも及んでおり、サービス向上へと繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市GH管理者会や研修会に出席している。12月6日集団指導出席予定。	市が主催する研修やGHの管理者会議等々には積極的に参加している。日頃から介護の更新申請等で行政窓口へ赴くときや、集団指導や実施指導でも運用や解釈について指導を受け、情報交換に努めながら信頼関係が維持・継続できるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束等適正化の為の対策検討会議を行い伝達している。外部研修や内部研修に参加し不適切なケアについて職員間で日常的に確認し合っている。玄関は建物の構造上家族に了承の上施錠している。	事業所内に身体拘束等適正化委員会を設置し、指針を定め3ヶ月に一度の頻度で委員会を開催している。議事内容は、日頃の介護の検証と検討であり、また直近の会議で職員にも周知徹底し、常に日頃の実践を振り返りながら、拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修・外部研修受講済み。接遇の自己チェック、他者評価行っており10月に接遇の面談を行い振り返りの機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を閲覧したり内部研修で学ぶ機会はあるが現在活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分な説明を行い不安や疑問を伺い理解、納得をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時苦情の窓口や機関の説明はしているが、面会時や手紙で要望を伺ったり相談するようにしている。	お便りを発行して利用者の生活の様子を家族へ伝えている。また事業所のサービスや職員の態度についても、アンケート調査を行い検証し、意見や苦情を集約し、サービス向上に役立っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や面談以外にも日常的に職員の意見を聞いている。月に1回系列施設の平和の杜で運営会議あり。	職員同士の関係性を重視した取り組みを続けており、職員の素晴らしい点から評価し、自己チェックも重ねながら、尊敬しあえる職場作りに取り組み、質の高いサービスを利用者に還元している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給制度、寒冷地・年末年始手当有。人事考課制度導入している。11月に人事考課の面談あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は一人一研修受講済み。11月で全員終了。系列施設の内部研修は月1～2回あり可能な限り参加し研修報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は会議や勉強会等が定期的により交流する機会はあるが職員は殆どない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いに寄り添い信頼関係の構築に努めながら取り込んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と入居者のこれまでの関係にも配慮し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画に反映させている。他のサービスの利用はない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し出来る事ややりたい事を一緒に行っている。一緒に行う事で感謝の気持ちを伝えながら良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外出等ご家族に協力して頂いている。家族と過ごす時間を大切にしており、面会時や家族参加の行事の時等一緒にゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所への積極的な出来ていない。	利用者の生活地が市内一円であり、馴染みの場所や親しんだ所への訪問は家族にお願いし支援している。馴染みの家財や懐かしい家族写真等は自室に持ち込み、大切に維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係には常に配慮しており、随時席の工夫や環境整備をしている。それぞれが自由に安心してしく過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時に必要があれば相談や支援出来る事を伝えたり、来やすい声掛けをしている。退居後もホームに来てくれているご家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報を共有し思いの把握に努めている。	毎日の生活を支えながら、嫌な事や好きな事等々を把握し、職員間で共有、本人の意向に沿った暮らしを支援している。困難な場合でも仕草や目線、表現を頼りに本人本位になるよう検討している。	本人の思いを把握、共有して介護に臨んでいる姿勢に敬意を表したい。今後は、本人は最後の時間をどこで過ごしたいのか等の最終段階に関して、具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用したり、ご家族からのお話や会話の中から情報をもとに把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況の観察や本人のお話を聞き職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントをもとに本人、家族、職員の意見や要望を取り入れ作成している。	ケア会議でモニタリング等を検討し、本人や家族の意向を据えながら介護計画を作成し、短期目標を設定している。介護日誌には、新たに考案した記録票も活用し、短期目標への日々の把握を円滑化しており、また病変等の場合は即座に変更を検討し、現実に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは記録できており、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた対応が出来るよう努めているが、今現在他のサービスの利用はない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族と協力しながら安全で豊かな暮らしが楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回まいホームケアクリニックの往診を受けている。往診以外にも24時間365日対応しており特変時等報告して指示をもらっている。今回風邪症状の方が居た時は毎日連絡を取り合っていた。	かかりつけ医は利用者や家族の意向を中心に決めているが、安全性を考慮し往診や訪問が可能な協力医への変更もお願いしている。協力医療機関とは24時間オンコールであり、安心できる適切な医療体制となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や系列施設からの訪問の看護師に日々の状態を報告している。往診の結果は記録に記載し情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院関係者との連携はとれており速やかに対応が出来た。現在1名入院中。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLが低下した時点でご家族の意向を伺い相談している。また、定期的に終末期についての確認をしている。11月に西区GHの勉強会でご家族参加型の看取りの研修があり職員1名ご家族1名参加した。	看取り介護については、積極的であるが医療面での限界があり、また民家改造型の住宅での重篤化介護も困難で、利用者にとって最適で適切な介護を家族と医療と事業所とで検討しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない。9月・10月に防災協会の研修2名参加。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練費は実施している。防災協会の研修2名参加。今年度中に地震時の訓練予定。	年に2回、消防の指導により避難訓練を実施している。災害用の食料等備蓄品や停電用の冬季暖房機材も用意し、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	統一したケアの検討や接遇の自己チェックを年2回他者評価を年に1回行っており各自気づきの機会を設けている。	介護の基本は接遇であり、それを保つために定期的に自己チェックと他者評価を行っている。具体的には、赤ちゃん用語、見下した言葉掛け等のNGワードを常に確認し、礼節ある介護を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースを尊重しながら自己決定できる機会を多く提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら本人の希望にそえる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	場面に合わせ外出時や誕生日の時等おしゃれが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新しいメニューを増やしたり旬の物を取り入れ喜んで頂ける様に工夫している。毎日一緒に作る時間を設け楽しく食事作りが出来る様工夫している。	食事の見た目にもこだわり、撮った写真で職員同士が過不足を話し合い、より充実した内容に向け取り組んでいる。外食も定期的実施し、回転ずしや焼肉店、喫茶店と多様で、利用者の好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯が進まない方にその方にとって食べやすい物を提供したり時間をずらしたりと柔軟な対応をしている。水分摂取量が少ない方にはゼリーを作って提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助で口腔ケアを行っている方は歯茎の状態など情報を共有している。毎食後介助をしているのは1名のみ。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め都度見直し自立に向けた支援を行っている。	排泄は、おむつ使用者であってもトイレにて排泄することを基本とし、またおむつ等の補助具も、本人の適正に合わせて利用する事としている。乳酸類や軽い体操も取り入れ、自然な排泄になるよう、努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や甘酒の摂取、散歩や毎日の運動で便秘の予防に心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜日から土曜日で週2回入れる様対応している。時間帯は大体固定されているがその中で本人と随時相談し希望に添えるようにしている。曜日固定の方1名。	毎日、浴槽にお湯を溜め、いつでも誰でもが入浴できる体制を維持しており、週に2回以上を目標に努めている。入浴拒否者には無理強いくことなく、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	枕の高さや掛物等配慮し一人ひとりに合わせた睡眠を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は各自の記録の所に保管し変更時は申し送りをし観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員ではないがそれぞれに合った趣味や特技を活かし役割として楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日常的に行っている。外出はそれぞれのレベルや希望に合わせてご家族と協力しながら行えている。	季節のドライブの他に、散歩を日課として出歩くように努め、ご近所のお庭を拝見したり、買い物に出かけたり、体調や天候を考慮しながら、閉じこもらない介護に努めている。また墓参や初詣等も家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には全員こちらで管理しているが数名買い物時自分で支払いをしてもう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時電話をかける方1名。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり窓からの風景で季節を味わう事ができる。家庭的な雰囲気大切に居心地よく過ごせるように配慮している。	民家改造型で居間兼食堂は2階となっており、1階にも多くの居室があるため離設等の防止のため、全家族の了解のもと、玄関は施錠状態となっている。2階の居間兼食堂からの眺望は素晴らしく、3方の山々が見せる四季の移ろいは、利用者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は随時状況に合わせて環境整備を行っている。それぞれのレベルや対人関係に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談しながら馴染みの物や好みの物を持ってきてもらいそれぞれ居心地よく過ごせる部屋となっている。	居室には、昔から親しんだタンスや椅子がおかれており、温度や湿度も適正な環境の中で、壁には家族写真も見られるなど、自分の部屋として過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使用しての階段昇降や自力で段差をまたいで頂いたり、分かり易い貼り紙で理解して頂いたりし過介助にならないよう心掛けている。		